図書館だより

2020年
3月号

2020 年 3 月 6 日発行

　暖冬と言われた今年の冬。それでも2月は冷え込みの厳しい日も多く、体育館脇の通路を歩くたびに凍えていましたが、3月も半ばとなり、春の気配が感じられるようになってきましたね。今年の桜の開花はいつ頃となるのでしょうか。

　さて、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校は休校、不要不急の外出も控えなければいけない状況となりました。ニュースを見ていると、色々と不安になることも多いですが、1 日も早い収束を願いながら冷静な行動をとりましょう。しばらくは家で過ごすことが増えますが、その時間を有効に使いたいものです。本があれば、物語の世界を楽しむだけでなく、国内外を旅する気分も味わったり、自分のスキルアップを図ったりと、家にいながら色々な時間の過ごし方ができます。図書館は1年生が登校する3月10日（火）、2年生が登校する12日（木）、両日とも開館していますので、この機にたくさんの本を借りていってください。

＊癒しの旅気分＊

E―ア 『旅の絵本　1～9』　安野 光雅 ‖ 著　福音館書店

　本を開くと、まず現れるのは岸辺に着く一艘の小舟と、旅人の上陸を見つめているように佇む一頭の鹿。旅はここから始まります。旅人の歩みと共に景色は変わっていきますが、そこに言葉は1つもありません。ここはどこだろう、この街の名前は何だろう、旅人はどこに向かっているのだろう、そういったすべてを想像しながらページをめくっていくと、一緒に旅して同じ風景を眺め、人々に出会い、音を聴き、空気を感じているような気持ちになってきます。時間を忘れていつまでもゆったりと楽しんでいたくなるような優しい癒しの旅を体験してみませんか。

＊手作りのこもので新学期をスタート＊

596-レ 『かんたんかわいいポーチとこもの』　ブティック社

　家にある余り布や端切れを使って、短時間で作ることのできるポーチやこものを紹介しています。ペンケースやブックカバーなど学校生活に使えそうなこものの作り方も色々と載っていますし、ぺたんこポーチは大きさを調整すればタブレット入れにも使えそうです。同じ形でも使う布で雰囲気も全然違ってくるので、気に入った形のポーチはいくつも作ってみるといいですね。作り慣れてきたらアレンジを加えてみるのも楽しそうです。それにきっと自分で作ったものだと愛着も湧き、大事に使うことができるはず。普段お裁縫をしない人も簡単なものから挑戦してみてはいかがでしょうか。

春のドラマを原作で先取り

4月17日（金）　NHK総合　よる10時スタート

913.6-ミ 『ディア・ペイシェント』　南 杏子 ‖ 著　幻冬舎

　医療の現場で起こる患者からのクレーム。誰もが早く治してほしいという切実な気持ちを持って人は病院へ行きます。そして、医師はそれを「治そう」と思ってくれています。だけど、悲しいことに診察の待ち時間や治療方針を巡って、言葉のすれ違いによって、不満は生まれてしまいます。数々のトラブルが医師たちを疲弊させていく中で、病院は「サービス業」なのか、医師は「患者様」をいかなる場合も尊重しなくてはいけないのか、心に浮かぶそんな思いと葛藤しながらも、患者と真剣に向き合おうとする女性医師の姿が描かれています。

2020 年 5 月放送予定（全 3 回）　NHK総合　日台共同制作

913.6-ヨ 『路（ルウ）』　吉田 修一 ‖ 著　文藝春秋

　2007年に台湾では台湾高速鉄道が開通しました。新幹線の車両技術を輸出した日本にとっても大きなプロジェクトでした。この物語はフィクションではありますが、この事業をテーマに、台湾と日本、ふたつの国の人々の間に生まれたいくつもの絆を描いてます。台湾に派遣されたプロジェクトチームの一員の物語、かつて台湾で暮らしていた日本人の物語、日本で働く台湾の青年の物語など、ひとりひとりの物語が紡がれていき、『路』という大きなひとつの物語になっています。頭の中に鮮明に浮かんでくる台湾の街並みやおいしそうな食べ物の数々を楽しみながら読んでください。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

　雪国育ちだからなのか私は、雪の描写が上手な文章が心の琴線に触れやすいのですが、韓国の作家**ハン・ガン**さんの**『すべての、白いものたちの』**（929.1-ハ　**河出書房新社**）を読んで、グッとくる素敵な文章に出会いました。

　『いったい何なのだろう、この冷たく、私にまっこうから向かってくるものは？それでいながら弱々しく消え去ってゆく、そして圧倒的に美しいこれは？』

　『吹雪』という作品のこの文章を読んだ瞬間、自分自身が吹雪の中で雪に触れているような感覚に陥りました。“雪”だけでなく、他にも“おくるみ”だったり、“しお”だったり、“つき”だったり、白という色からたくさんの物語が紡がれます。物語なのだけど詩的でもあり、淡々としているようで奥深く、言葉のひとつひとつが静かに心へ染み込んでくる本でした。装丁もとても凝られていて、色味の違う白い紙をいくつも使って1冊の本が出来ています。最近は電子書籍が普及してきましたが、紙の本には手触りや色味を楽しむという醍醐味もあることを教えてくれる本でもありました。触れて楽しみ、読んで楽しみ、じっくりと丁寧に読書のひとときを送ることができ、満ち足りた気持ちになりました。　【今井】

⭐先生がプロデュース!!今月の展示⭐

今月の展示は… **小久保校長先生** がプロデュースです☺

展示のテーマは…、**【哲学する！「悩んだり、疑問をもつことが大切」】**

「哲学」と聞くと、「実生活に役に立つの？」「難しそう！」と本を手に取る前に躊躇する人が多くいるのではないでしょうか。私が今回「哲学」を皆さんに勧める１つの理由は私が高校１年生の倫理の課題でキェルケゴールの『死に至る病』に取り組んだことにあります。「死に至る病は絶望である」という言葉に衝撃を受け、難解な本を悪戦苦闘してレポートを完成させたことを今でも覚えています。内容は「難しかった」という記憶しかありませんが…。「分からない」だから「教えて」と、皆さんはすぐに答えを求めます。しかし、世の中に「分からないこと」、「難問」が多く存在します。まず「何故なのか？」と疑問をもち、「思考する」ことが大切です。哲学は自らが生きる時代に何が起こっているのか？絶えず問いただす学問です。そのため歴史の転換期には「哲学する」ことが活発におこなわれました。そして現在はまさにそうした時点であると考えます。AI に負けない力を備えるために「哲学する」ことをお勧めします。

◆展示本リスト◆

104-バ『１００の思考実験』　ジュリアン・バジーニ ‖ 著　紀伊國屋書店
100-テ『１６歳からの哲学』　手島 純 ‖ 著　彩流社
116-ニ『「ロンリ」の授業』　NHK『ロンリのちから』制作班 ‖ 著　三笠書房
121-オ『いまこそ知りたい日本の思想家２５人』　小川 仁志 ‖ 著　角川書店
121-タ『中学生からの哲学「超」入門』　竹田 青嗣 ‖ 著　筑摩書房
123-サ『高校生が感動した「論語」』　佐久 協 ‖ 著　祥伝社
131-ア『90 分でわかるアリストテレス』　ポール・ストラーザン ‖ 著　WAVE 出版
134-ニ『超訳　ニーチェの言葉』　ﾌﾘｰﾄﾞﾘﾋ・ｳﾞｨﾙﾍﾙﾑ・ﾆｰﾁｪ ‖ 著　ﾃﾞｨｽｶｳﾞｧｰ・ﾄｳｪﾝﾃｨﾜﾝ
141-ト『思考力』　外山 滋比古 ‖ 著　さくら舎
B159-ヨ『君たちはどう生きるか』　吉野 源三郎 ‖ 著　岩波書店
159-ウ『君たちはどう生きるかの哲学』　上原 隆 ‖ 著　幻冬舎

この中でも、いちおしなのは…

100-テ『16歳からの哲学』　手島 純 ‖ 著　彩流社

著者の手島純さんは、高校教師で哲学を「倫理」の科目のなかで教えています。著書の中で「哲学を学ぶことは孤独な闘いの中で希望を見つけ、社会に目を向けることだ」と述べています。高校時代は様々なことに思いを巡らせ、また悩める時期でもあります。そんな皆さんにとって、先哲の考えに触れ「哲学する」ことは大切だと思います。まず、入門編としてこの本を読み、気になった哲学者の本を自身で選んで読むことをお勧めします。

本で振り返る平成の30年

今回は平成26年（2014）から時代と本を振り返っていきます。平成26年2月関東・甲信地方を中心とした記録的豪雪に見舞われました。みなさんもこの大雪のことはよく覚えているのではないでしょうか。この年のベストセラー（トーハン調べ）1位は、**『長生きしたけりゃふくらはぎをもみなさい』**でした。3位の**『人生はニャンとかなる！』**や7位の**『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40あげて慶応大学に合格した話』**は秋草の図書館でも人気でした。

平成27年（2015）は、北陸新幹線の長野駅 － 金沢駅間が開業したことで東京－金沢・富山間が結ばれ、関東から北陸への旅に出かけやすくなりました。この年はお笑いコンビ「ピース」又吉直樹さんの**『火花』**がベストセラー1位に輝きました。「火花」はこの年に芥川賞も受賞し、又吉さんは作家としても一躍注目されることになりました。続く平成28年（2016）は、新海誠監督の映画『君の名は。』が大ヒットした年。ストーリーだけでなく、美しい風景描写や人気ロックバンドRADWIMPSが手がける劇中音楽も話題となりました。この年のベストセラー1位は石原慎太郎さんが政治家 田中角栄の生涯を描いた**『天才』**でした。8位に入った宮下奈都さんの**『羊と鋼の森』**はこの年の本屋大賞にも選ばれました。

平成29年（2017）、平成30年（2018）の1位には、佐藤愛子さんの**『九十歳、何がめでたい』**、吉野源三郎さんの原作を漫画にした**『漫画　君たちはどう生きるか』**がそれぞれ輝きました。恩田陸さんの**『蜜蜂と遠雷』**（29年　3位）や村上春樹さんの**『騎士団長殺し』**（29年　7位）、お笑い芸人「カラテカ」矢部太郎さんの**『大家さんと僕』**（30年　3位）など、この辺りは記憶に新しい作品が多いと思いますが、みなさんが印象に残っているのはどの本でしたでしょうか。

913.6-マ『火花』　又吉 直樹 ‖ 著　文藝春秋

花火大会の余興として立ったステージ。人々の関心は花火に向かい、誰も漫才をする僕らを見てはくれない。だけど、そこで僕は神谷さんに出会った。「弟子にしてください」と頭を下げる僕の言葉を受け入れてくれた神谷さんは、1つの条件をつけた。それは、神谷さんの伝記を書くことだった。

そして始まったふたりの交流。傍から見たら奇抜にしか映らないような神谷さんの言動だけど、僕の目にはひたむきに「笑いとは」「漫才とは」を追求した人間の姿に見えた。そんな神山さんと過ごした日々が記録されたこの本そのものが神山さんの伝記でもあるのかもしれない。

913.6-ス『君の膵臓をたべたい』　住野 よる ‖ 著　双葉社

些細な偶然によって僕はクラスメイト山内桜良の秘密を知ってしまった。他者との関わりを極力作らない自分とは正反対の明るく溌剌とした彼女は、信じられないことに膵臓の病によって余命を宣告されていた。それでも彼女はよく笑った。よく食べた。やりたいと思ったことを行動に移し、いつも楽しそうだった。そんな彼女の姿を僕は隣で、時に呆れながら、時に楽しみながら、時に戸惑いながら見ていた。これは関わりを持つことなんてないはずだった彼女と僕の4カ月の忘れられない物語。そして、誰も予想もしない結末が待っている物語。